令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	嬉野市立塩田小学校
1　前年度 評価結果の概要	○学力向上については、学力向上対策シートに示したマイプランを指導したと回答した職員が８５．５%であった。GIGAスクールについても共通理解し、実践を図っていくために、1人1台端末の今後の有効活用に向けて職員の技能の向上や授業づくりについての研修や体制づくりを行う必要がある。 ○コロナ禍の中であっても学びを止めず対話的で深い学びを実現するためには、地域連携による体験活動や学習指導ついて職員全体で共通の認識をもち、方法を模索していく必要がある。 ○業務改善・働き方改革については、働き方改革への意識をもつことができてきたが、時間外勤務の削減にはつながっていない。職員全体で共通の認識をもち、工夫を進めていく必要がある。
2　学校教育目標	元気に　がんばる　塩田っ子の育成
3　本年度の重点目標	○地域・家庭との教育力の連携（コミュニティとの活動及び家読の奨励） ○タブレットを活用した学習方法の研究

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した職員85%以上をめざす。	・職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修などにより取組の促進を図る。	B	・職員間でマイプランを共有するために、一覧表にして全職員に配布し、校内研修で取組の中間評価を促した。 ・マイプランの成果指標を達成したと答えた職員は90%であった。	A	・マイプランを意識し、指導力向上に努めていると答えた職員は91.6%であった。 ・マイプランの成果指標を達成したと答えた職員は100%で、マイプランを意識して指導を行うことができたといえる。	A	・保護者として先生方の指導力向上への取組が図れており安心。 ・市からの研究指定（学力向上）を契機として小中連携を更に充実させる必要がある。
	○児童が分かる、できると思う授業の充実及び家庭学習の推進	○「マイプランを意識し、指導力向上に努めている」「タブレット端末の研修等に参加したり、活用を意識したりしている。」と回答した職員が85%以上を目指す。	・毎月のノーテレビ・ノーゲームデーの際に家読を推奨する。 ・家庭学習強化週間を設定する。（年2回） ・タブレット端末の研修会を年2回以上取り組む。 ・学年に応じた内容でタブレット端末を活用した授業を年間5回以上実践する。	B	・お便りを出し、毎月のノーテレビ・ノーゲームデーの取組みの向上を図った。 ・家読の取り組みはまだ、60%ほどで、まだまだである。 ・夏休み明けに家庭学習強化週間を設けた。 ・学年別の家庭学習目標を達成した割合は61%であった。 ・タブレット端末の研修会を夏休みに2回行った。	A	・ノーデジタルデーの取組状況は約80%であった。 ・家読の取り組み状況は60%であった。 ・教員がタブレット端末の活用を意識したと回答した割合は100%であった。研修を行ったことでタブレット端末を使う事への抵抗が少なくなったといえる。 ・家庭学習目標を達成した児童の割合は75%であった。	A	・友達関係もあると思うが、授業が分かる、できる、が楽しく過ごすことにつながると思う。 ・タブレットを使った簡単なプログラミングなど休み時間を使って楽しく取り組んでいると聞いた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と答える保護者が90%以上をめざす。	・全校でのふれあい道徳の実践。 ・道徳の授業について学校のお便り等で年2回以上知らせる。	B	・今年度は9月に実施予定。ふれあい道徳の前後にはお便りを出し、保護者への周知と理解を行う。 ・週1時間の道徳で豊かな心を身に付ける教育活動を実施している。	A	・アンケート結果では、97.4%の保護者が道徳教育に積極的に取り組んでいると答えた。ふれあい道徳の実践は分散参加だったが、保護者には好評だった。	A	・家庭環境が明るくなることが道徳心を育むことになると考える。各家庭での取り組みの充実が見える結果。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	・いじめ防止等（いじめの認知・防止のための取組・事案対処等）について組織的に対応ができていると回答した職員が90%以上にする。	・教育相談週間を、年1回以上実施する。 ・毎月心のアンケートを実施し、気になる点の聞き取りや共通理解の場で確認する。 ・SCによる心の授業を各学年1回ずつ行う。 ・良いことでも共通理解をしたりスズキ校務の児童の様子の欄に残したりする。	B	・心のアンケートを毎月実施し、児童の相談があれば、担任や他の職員が話を聞いて実態把握や児童理解に努めている。結果は回覧するなどして職員全体で把握をしている。 ・いじめ防止の研修も行い、職員全体で対応をしている。 ・スズキ校務に入力する時間がなく、有効活用ができていない。	A	・「子供たちが学校が楽しいと思えるように努力している」と肯定的な回答をした職員は100%であった。心のアンケートの結果を全職員で回覧した取り組みも良かった。	A	・些細なことでも職員全体で共有すると担任だけの問題にならず負担も軽くなると思う。子供もそうだが、先生方も話せる雰囲気づくりは大切。いじわるしてしまう子供への寄り添いもわすれないようにしたい。 ・何よりも大切なことは、子供たちが楽しく学校に行けることだと思う。先生方の姿勢がありがたい。
	○あいさつ・返事の励行	・アンケートで「あいさつ・返事ができている」と答える児童・保護者が共に85%以上になることをめざす。	・あいさつや返事の仕方を具体的に指導するとともに、あいさつの意味について児童に理解させる。 ・児童会活動や委員会などによる挨拶の取組を実践する。 ・保護者に対し、PTA総会や学級懇談会、学級通信、またCOMIメール等を上おして協働してあいさつ指導を行うような働きかけをする。	B	・運営委員会の協力を得て月始めのあいさつ運動に取り組んだ。 ・気持ちのよいあいさつができるように、適宜、朝会や放送等で呼びかけたりクラスで話をしたり継続した指導を行った。 ・地域の方やPTAの協力を得ながら、あいさつの励行に努めた。	A	・「進んであいさつ・返事ができた」と答えた児童が92.9%、保護者が88.2%で、昨年度よりも意識して取り組むことができた。 ・給食時間の「あいさつ名人」の放送が有効だった。	A	・元気で大きな声で挨拶ができている。 ・信号待ちで車におれをしている児童も見かける。日頃の挨拶も良くできている。 ・校外での挨拶が前よりり少なくなった。 ・子供たちから挨拶してもらうと気持ちが明るく元気になる。大人たちがまず実践しないといけない。地域やPTAと連携するのはとてもいいと思う。 ・挨拶がとても上手。 ・朝の立ち当番では、元気に挨拶してくれる子供たちが増えた印象。 ・地域での挨拶が今後の課題（塩中も含め）
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	○学校評価アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できていると答える児童・保護者をともに85%以上にする。	・年2回、生活がんばりカードで「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」をチェックする。 ・養護教諭や専門家と連携し、SNSやゲーム依存症に関する保健指導を講演会や学級指導などで継続して行う。 ・学級活動等において「早寝・早起き・朝ごはん（生活習慣）」に関する授業を年1回実践する。	B	・生活がんばりカードは、夏休み明けに第1回を行う予定。 ・SNSやゲーム依存については、10月の教育講演会に4年生以上が参加する予定。1～3年生は、養護教諭と一緒に学級指導を行う予定。 「早寝・早起き・朝ごはん（生活習慣）」に関する授業について提案をする。	A	・学校評価アンケートで「早寝・早起き・朝ごはん」が実施できている児童が約93%、保護者は約85%であった。日々の指導や生活がんばりカードの取り組みの成果が見られる。 ・早寝については、学年によってはできていないようなので、継続した指導が必要である。 ・「早寝・早起き・朝ごはん（生活習慣）」に関する授業は、今年度中に2年生で行うことにしている。	A	・アンケートによりスマホ所持率を把握するなどして小中で実効性のある対策を講じていく必要がある。
	◎志を高める体験活動の充実	○アンケートで、地域の良さを見つけることができたと答える児童と、学校は体験活動の充実に努めていると答えた保護者を共に85%以上にする。	・各学年で、外部（地域の老人会等）や地域ボランティアと連携した学習活動を2回以上行う。 ・お礼の手紙など外部や地域ボランティアとの事後のやりとりまで意識して活動する。	A	・1，2年生は芋さし、2，3年生は玉ねぎ引き、4年生は稚魚放流・塩田川講話、5年生はもち米作り、6年生はミシンサポーターに来てもらっている。 ・お礼の手紙が書けている学年もある。5年生は、活動がすべて終わってから書く予定。関わってくださった方をよかとこ祭りに招待する予定。	A	・学校評価アンケートでは、「地域の良さを見つけることができた」と答える児童が96．6%、「学校は体験活動の充実に努めている」と答えた保護者が94．6%であった。 ・今年度は、コロナ以前の状態と同じくらいの活動ができたためと考えられる。よかとこ祭りでは、体験したことを伝えることができた。	A	・コミュニテイスクールとして楽しく活動ができている。 ・コミュニテイ等、外部と連携した学習がよくできている。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限（月当たり45時間以内）を遵守する。	・定時退勤推進日（毎週金・第3水）の完全実施（毎回掲示物の提示）。 ・前期の反省をもとに分掌事務等の分担の見直し（年1回）。	B	・4月から8月までの定時退勤推進日では、実施率70%。継続して掲示物や呼びかけを行う。 ・10月職員会議にてワークライフバランスの振り返りを行い、業務の見直しを図る。	A	・ワークライフバランスの研修、及び定時退勤の呼びかけを教科したことで職員の意識は高まった。 「定時退勤を守っている」と肯定的に答えた職員は75.1%だった。 ・勤務時間には、個人差が見られる。業務内容や負担感については、その都度話し合える機会を設定していく。	A	・時間外勤務も減少傾向にあることはよかった。今後も改善を図ってほしい。
	○放課後の事務時間の確保	○年間授業時数や余剰時数から、校時を見直し事務作業期間を年2回設定する。	・放課後の事務時間確保のために5時間授業日を設定し、10時間確保する。 ・成績処理及び学期末事務のために下校時刻15：40の週間の設定（年3回）。	B	・9月2週目に4日間5時間授業日の設定。高学年は4時間確保できた。それとともに、下校時刻も早く設定できた。	A	・今年度からの校時程に職員も児童も慣れたことで、放課後の時間確保ができた。肯定的に答えた職員が100%だった。 ・5時間授業日を設定したことで成績処理などの業務も計画的に取り組むことができていた。	A	・時間の確保ができることで業務ができたことで改善に向かったのではないか。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の支援体制の充実	○特別な支援を要する児童や配慮を要する児童の理解や対応について、職員間でずれがないように共通理解を行う。	○アンケートで「困り感を持つ児童に対して、きめ細やかな指導・支援を行うことができている」と答える職員が90%以上になることをめざす。	・支援を要する児童の情報交換を、月1回行い、記録を蓄積する。 ・特別支援教育に関する研修会を年1回以上開く ・児童や保護者に対して啓発活動を年1回行う。	B	・6月の校内研修では、特別支援学級児童と通級児童の事例研究会を行った。講師の先生を招いての手作りの研修で、職員の児童への支援の幅も広がり、困り感を持った児童が少なくなった。 ・2名は通級につながり、楽しく学校生活を送っている。 ・各学年で、児童への啓発活動を行った。プレゼンの改良も今後必要である。 ・今後、情報交換のやり方を改善する。	A	・「困り感をもつ児童に対して、きめ細やかな指導・支援を行うことができている」と肯定的に答えた職員が100%であった。月一回、全職員で児童の情報交換をすることで、共通理解をすることができた。 ・スズキ校務に入力することで、記録を残すことができた。	A	・専門機関との連携や情報交換等により困り感をもつ児童への細やかな指導支援を継続していただきたい。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・1人1台タブレット端末の活用について職員の意識は高まった。児童も使い方に慣れ、学習活動で使う場面が増えた。今後は学力につながる活用の仕方についても探っていく必要がある。また、保護者等にも活用状況について理解してもらう機会や場を設定する必要がある。 ・コロナ禍においても学びを止めることがなく体験活動や学習活動を行うことができた。今後も地域や外部との連携を取りながら体験活動や学習指導ついて方法を模索していく。 ・業務改善・働き方改革について職員全体で共通の認識をもち進めることができた。時間を意識することは大切であるが、業務内容を見直すことにより具体的に進めていく必要がある。